

保育園の園庭が持つ役割 子どもたちへの思いが込められた園庭に

もえぎ設計 川本真澄

第13回

園庭は、子どもにとって大切な育ちの空間です。その園の保育によって求められるものも違います。とは言うものの、建物内部の詳細な打ち合わせは何度も話し合っただけで済ませたが、園庭についてはまだまだ浅いなあ、と感じています。植物のことや、生き物のこと、土のことや水のこと、そしてそれらと子どもの遊びや発達との関係について、もっと学ぶことがありそうです。

そんな反省も込めながら、園庭づくり事例をご紹介します。

■田んぼには生き物がいっぱい
K保育園は、園庭の一角に水田と畑をつくられました。保育園の事務長は、郊外で田んぼを借りて園児のお米を栽培しておられます。稲穂がゆれる光景を見た事がない子どもたちにぜひ米づくりを体験させたいと、小さなながらも本格的な水田です。田んぼがあればアメンボも来る。トンボも来ます。でっかいカカシが立っている光景はなんともどこかでユーモラスで、事務長の思いがはじけていました。

園庭には芝生が敷き詰められました。子どもたちが毎日遊べ



K保育園の田んぼ

■園庭の高低差を利用して わくわくした園庭を

S保育園は、高槻市の郊外に位置し、川辺の敷地を開発して建てられました。護岸に擁壁をつくり敷地を平にしましたが、

てきた「けもの道」を抜けて子どもたちは毎日お散歩に出かけます。下の畑で子どもたちが

育てた野菜が給食に出されます。

■保育園みんなが出会う園庭

N保育園は、建て替えにあたってのアンケートで、園庭がとても大切にされていることがわかりました。正門から園庭を通って園舎へ。すべての子どもと大人が、出会い交流しあうことで生まれる連帯感のようなもの。異年齢の子どもたちが育ち合う場所。園庭の真ん中は広い空間がひろがっていて、鬼ごっこや竹馬など保育者がいろいろな遊びを仕掛けてます。体育会系保育と密かに名付けていたのですが、おもいきり遊び込むことをとて

も大切にしておられます。周囲には築山や畑や小屋や水場などがあり、木や花が植えられて、子どもの興味を広げます。

園庭の計画は、ワークシヨップで進めました。ピオトープがほしいということになり、人工の小川を施工も含めて子どもたちや親御さん、職員みんなで行きました。ただ、小川をコンクリートで形作ってしまったのは残念だった、と思っています。たとえ長持ちしなかったとしても、田舎に流れていたような土手が草で覆われているような、どこからが小川かわからないような、そんな光景でなければな

らなかつたと反省しています。このメインの園庭の他に、0歳児〜2歳児には保育室につながる専用庭があります。中・半外・外の空間が一体となつてつながっていることは、とても大切なことのように思います。日本の住まいの原点だと思っからです。こうした環境の中で、四季を感じ取りながら五感を育ててほしいと感じています。

■市中が園庭に、 豊かな生活が広がる

M保育園は、共同保育所時代に培った園庭のない保育の技があります。市中が園庭だと位置づけて、園バスであちこち駆け巡っています。西山のたけのこ掘り、桜の名所めぐり、鴨川のゆりかもめ、一番楽しいところで遊ぼう、それが日常なのです。

ひるがえって、園に帰ってくると、コの字型に配置された園舎の中庭は農家の庭先みたいな感じで、梅干しが干してあったり、手ふき布や雑巾が干されたり、暮らしの一部のような感じがあります。何かに興味を持った子どもが、縁側からふらっと中庭に出て、干してある梅干しに興味

を持ったところで保育士が、「食べてみる？」と声かけし、すっぱいなあと笑い合う、何気ない日常の暮らしが広がっています。

■伝えたいことが込められている園庭は豊かな空間に

私の娘がお世話になったT保育園は、園長が植物や虫が大好きで、実のなる木がいっぱい植わり、夏にはスイカ畑も出現しました。どんどん畑や花壇が広がるので、子どもたちに園庭を残してください、と懇願したくらいです。でも、小鳥や虫がたたく音が響いて、子どものお誕生日に、園庭で取れた果物が入ったゼリーが振る舞われたのは、子どもたちにとつてとても幸せな思い出のようです。こうして振り返ってみると、狭い、広いだけではなく、子どもたちに伝えたい大切なものがそこ込められているかどうか、ということが園庭を豊かな空間にするかどうか、ということなのかと気づかされます。

子どもの自然の本性を見つめ、育むことができるよう努力したいと思っています。



S保育園 急斜面のけもの道



S保育園 斜面地から畑、川の緑道につながっている



N保育園の園庭



N保育園 1,2才児専用園庭